
隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 345 号

—環境・農業・食べ物など情報の交流誌—

2013.01.31（木）発行 山崎農業研究所&編集同人

<キーワード>

環境・農業・健康・食べ物などの情報提供、高齢者と若者、農村と都市の
交流ミニコミ誌。山崎農業研究所&『電子耕』編集同人が編集・発行。

<http://www.yamazaki-i.org>

*****発行部数 1120 部*****

□ 目 次 □-----

<巻頭言> アメリカのスーパーマーケットでのおコメの値段は... 塩谷哲夫

<山崎農業研究所 第 144 回定例（現地）研究会 速報（要旨）>

テーマ：果樹王国ふくしま：産地再生に向けて

1. 基調報告 ベラルーシ現地視察を踏まえて

.....今野文治氏 JA 新ふくしま農業振興対策室

<随感> 食を通しての感懐 松坂正次郎

<編集後記> 共感なしには何もはじまらない

<巻頭言> アメリカのスーパーマーケットでのおコメの値段は...

この暮れから正月をシアトルの娘の家で過ごした。この機会にアメリカのマ
ーケットで、農産物がどのぐらいの値段で売られているかを調べてみようと思
っていた。

シアトルには戦前から中日韓から移住してきたアジア系アメリカ人が多い。
街のあちこちに、中国語、日本語、韓国語の新聞やチラシがおいてある。MLB
「シアトル・マリナーズ」のホーム球場セフィコ・フィールドのすぐそばには、
北米一の日系スーパー「宇和島屋」があり、日本食やアジアンフードの多彩な
食材が売られている。正月を前にして、お節やお雑煮の材料や餅、日本酒のセ
ールが行われていた。

私たちが日本で常食している日本米（短粒）が高く、最高値は TAMANISHIKI
（玉錦）の 3,420 円で、KOSHIHIKARI、TAMAKI/GOLD、AKITAOTOME が 2,930 円
であ
った。中粒米は 1 ランク下がって 2,000~1,400 円程度で、一番の売れ筋は 1,800

円の NISHIKI、HIKARI 辺りとのことであった（1ドル 85円として）。

これらのコメは、カリフォルニアの乾いた風土のなか、地下深くから水を汲み上げて構成した人工環境の下で、数百～数千ヘクタールの規模で工学的に作らせた商品である。風土的制約を越えて稲の栽培・効率的生産を成功させた科学技術の成果は評価できるが、その生産の持続性については、やはり風土の制約があるのではないかと...是非、産地を観てみたいと思う（ミシシッピ流域も含めて）。

ところで、私が住んでいる茨城県つくばの JA 直売所ではコシヒカリ（普通栽培）を 3,900円（特栽培 4,100円）で売っている。近くの JA 大規模販売店では、栽培地や栽培法によって幅があって、茨城県産コシヒカリが 4,600～5,200円 で売られている。周辺のスーパーマーケットでは正月特売で 4,380円、お買い得品のユメヒタチが 3,760円 で、業務用米（「国産」とだけ表示）は 2,970円 であった。ちなみに、新潟・上越の農家の直販は 6,000円 ぐらいである。

これらのコメは、元来、日本の湿潤なモンスーン気候の雨と泥の風土に適合したイネの産物であり、それらの条件を活かす歴史的な人間の営みが生み出したものである。イネは日本の風土に適い、国土（森林・川・農地）の維持、そして日本人の暮らしになくてはならないものである。その一方で、この状況を将来も持続していけるのかと言うと、担い手の継承性、経営の採算性などをめぐって、深刻な問題も生じている。コメを主食にしている私たちは、もっと知恵を働かさないといけない。

マーケットでのコメ（コシヒカリ）の値段は、アメリカでは日本の 1/2～2/3 程度であって、消費者の購入する価格の上では日米間のコメの値段にそんなに大きな開きは無かった。しかし、コメの生産の仕組みの上では日米間に根源的なところで大きな違いがある。価格や生産コストなどの安易な比較で語れるものではない。風土と食の文化のちがいで考えなくてはならないことである。

帰りの機中で、松本健一の『砂の文明 石の文明 泥の文明』（岩波現代文庫、2012）を読んだ。

塩谷哲夫

山崎農業研究所幹事／東京農工大学名誉教授

yamazaki@yamazaki-i.org

<山崎農業研究所 第144回定例(現地)研究会 速報(要旨)>

テーマ：果樹王国ふくしま：産地再生に向けて

期 日：2013年1月19日(土)

場 所：JA新ふくしま飯坂南支所 会議室

1. 基調報告 ベラルーシ現地視察を踏まえて
.....今野文治氏 JA新ふくしま農業振興対策室
2. ワークショップ解題=山崎農研
 - (1)住民参加型復旧・復興の方法.....小泉浩郎氏
 - (2)放射性物質：汚染・除染の考え方.....渡邊博氏
 - (3)産地再興：歴史に学ぶ.....石川秀勇氏
 - (4)風評被害：そのメカニズムと対策.....家常高氏

-
1. 基調報告 ベラルーシ現地報告を踏まえて
.....今野 文治氏 JA新ふくしま農業振興対策室

1991年にロシアより独立し、面積日本の60%、人口983万人の国、ベラルーシ共和国を最近訪問し、福島原発事故への対策を模索した。

ベラルーシの場合：ベラルーシ国の南、国境近くのウクライナ側にチェルノブイリがある。そのチェルノブイリ原発事故(1986)では放射性ヨウ素は炉心内の50~60%、放射性セシウム134は20~40%が爆発放出された。量はヒロシマの400倍、これは福島の数倍に当たる。

ベラルーシでは放射能と共存できる医療、育児、幼児育成、日常生活に、教育を通して放射性文化がつけられている。情報センターで情報管理を一元化している。

ベラルーシでは放射能安全値のなかにグレイゾーンを含めて考えていくことが提案されている。食品については、日本の基準値とは異なって、数倍高いものもあり、あるいは逆の場合もある。原発事故の場合は時間と共に低減するが、爆心地に近いところでは安全値にならない。こうした中で影響を受けた人々は周辺国からも積極的な協力の下で生活している。

福島の場合：国の支援、非被災地域からの協力がなかなか進まない。政府の復興への対応が遅れていて、地元での不満は大きい。ベラルーシのように情報を一元的にまとめて提供できる組織づくりが必要だ。

果樹の樹体内での放射能の移動、分布に関しては品目ごとに特性がある。柿>桃>リンゴ>梨と蓄積される放射能の濃度等は異なる。しかし、管理の如何によっても移動、蓄積が違ってくる。せん定による枝の更新、収穫時期を遅延させない管理をする。カリ肥料を施しセシウム吸収を抑えるなど、安全を最大にする努力をしている。粘土質、砂質といった土壌による果実蓄積への影響については大きな有意差はなかった。なお、果実の検査部位でも差があるので、評価は難しいこともわかった。

今後の問題として、風評などを含め、研究課題は山積している。

(文責：石川・安富)

<随感> 食を通しての感懐

小生はいま“完全な消費者”という立場に置かれています。そういう立場で「食を通しての感懐」を述べようと思います。

ここ1~2年に特に痛感していることを正直に申し上げます。「野菜がまずい。年々それが強まっている」と言うことです。なかでも「葉物」は“野菜感覚”から“制作もの”に移行していると思います。いわゆる繊維質が“きつく”なり、食感が低下、のみこむごとに抵抗感が生じているのです。

その原因と考えられる第一は肥料の「化学肥料」への傾斜、堆厩肥の減少に由来すると思います。農村では“少子高齢化”が進行しています。伝統的な堆厩肥を“土にお返りする”ことから化学肥料の機械散布に移り、またかつてのように「愛」をもって一粒一粒、手ずから種子を手播きすることが減少しています。

「農業」から「工業化」に移り、「愛育」から「金めあて」になったと言ったら言い過ぎでしょうか。勿論、たつき（生活）して参る必要がありますからある程度までは了解できますが、人や家畜という「生きものの口」に入るものですから、機械・化学化・手抜きは長期には人間に復してくることは必然と存じますがいかがなものでしょうか。

小生は実態調査したわけではありません。いわば“食感”といったものです。小生にとっては食事の都度、それを感じ、自ら“腹立たしい”おもいを致して居ります。御教示いただければ幸甚に存じます。

松坂正次郎

山崎農業研究所顧問

yamazaki@yamazaki-i.org

<編集後記> 共感なしには何もはじまらない

2013年1月20日、都内で開かれた公開討論会を「原発事故・放射能汚染と農業・農村の復興の道」を聞きに出かけてきた。

発言者は、小出裕章さん（京都大学原子炉実験所助教）、明峯哲夫さん（有機農業技術会議代表理事）、中島紀一さん（茨城大学名誉教授、日本有機農業学会理事）、菅野正寿さん（福島県有機農業ネットワーク代表）、そしてコーディネータは、大江正章さん（コモンズ代表）だ。

当日の速記記録は、福島県有機農業ネットワークのブログに掲載されている。

公開討論会【現場からリアル報告中です】

原発事故・放射能汚染と農業・農村の復興の道

<http://fukushimayuuki.blog.fc2.com/blog-entry-102.html>

速記録ではニュアンス伝わりにくいかもしれないが、会場は終始重苦しい雰囲気であった。農作物への放射性物質の移行は低いのは事実だが、「放射能被爆に閾値はない」という立場からは、放射線巻理区域にちかい状況にある土地に留まることは基本的に賛成しかねる、という小出さんと、そこで住み続けることがなにもものにも代え難いとする農業者の側の意見はなかなか交わろうとしなかった。

「危険だから逃げる」でもなく、「安全だから心配しなくていい」でもない。「危険かもしれないがここに留まりつづける」。第三の道とでもいえるこの選択をした人びとが福島には少なからずいて、実はこれは本来当たり前の道なのではないか... そんな発言もあった。救われたのは「原理主義者」と自ら称す小出さんが「逃げない人びとの苦悩は理解できる」と明言されたことだった。

発言者のひとり、菅野正寿さんが代表をつとめる福島県有機農業ネットワーク

は、昨年7月に山崎記念農業賞を受賞された。このネットワークが取り組んできたのが、原発事故によるさまざまな分断の回復である。そして、コーディネータの大江正章さんは「この討論会は何が正しいのかを決めるものではない」と何度も言われた。

主義主張は違うかもしれない、それでも相手の言うことに耳を傾けつづける、共感なしに何もはじまらない。そんなふうに感じられたことがわたしにとっては何よりの収穫だった。

2013年01月31日

山崎農業研究所会員・田口 均

yamazaki@yamazaki-i.org

山崎農業研究所編・発行／農山漁村文化協会発売

『自給再考—グローバリゼーションの次は何か』

(発売：2008/11 定価：1,575円)

http://shop.ruralnet.or.jp/b_no=01_4540082955/

たくさんの書評・紹介記事をいただいています。感謝・感謝です。

◎辻信一さん(文化人類学者、ナマケモノ倶楽部世話人。明治学院大学教授)

グローバルの次は何? ~卒業するゼミ生諸君へ

<http://www.sloth.gr.jp/tsuji/library/column64.html>

◎戒谷徹也さん(大地を守る会)

ブログ: 大地を守る会のエビちゃん日記 “あんしんはしんどい”

「自給率」の前に、「自給」の意味を

<http://www.daichi.or.jp/blog/ebichan/2008/12/16/>

◎吉田太郎さん(長野県農業大学校教授、執筆者)

キューバ有機農業ブログ 自給再考の本が出ました

http://pub.ne.jp/cubaorganic/?entry_id=1822182

◎関良基さん(拓殖大学政経学部)

ブログ: 代替案 書評: 『自給再考—グローバリゼーションの次は何か』

<http://blog.goo.ne.jp/reforestation/e/cb22650fa39384bdd22b61440fa81fa0>

◎大内正伸さん(イラストレーター・ライター)

ブログ: 神流アトリエ日記 (3) 「書評『自給再考』」

<http://sun.ap.teacup.com/applet/tamarin/20081204/archive>

◎ブログ：本に溺れたい グローバリゼーションの次は何か

<http://renqing.cocolog-nifty.com/bookjunkie/2009/01/post-841e.html>

◎森川辰夫さん

NPO 法人 農と人とくらし研究センター／資料情報

<http://www.rircl.jp/shiryo.htm>

◎日本農業新聞／書評

(2009/01/19 評者：日本農業新聞編集委員 山田優)

<http://yamazaki-i.org/>

(画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい)

◎小谷敏さん (大妻女子大学)

日本海新聞コラム「潮流」／「自給」の方へ (2009/01/31)

<http://blog.goo.ne.jp/binbin1956/e/c895f6619b30ba7725e264b4daa75219>

◎白崎一裕さん ((株) 共に生きるために)

月刊とちぎ V ネットボランティア情報 vol.158／しみん文庫

<http://yamazaki-i.org/>

(画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい)

◎塩見直紀さん (半農半 X 研究所、執筆者)

ブログ：半農半 X という生き方～スローレボリューションでいこう！

立国集。

<http://plaza.rakuten.co.jp/simpleandmission/diary/200812270000/>

◎お願い「<読者の声>の投稿規定・メールの書き方」

1、件名（見出し）を必ず書いて下さい。「はじめまして」は省略して、言いたいことを具体的に。

2、氏名・ハンドルネームは、文末ではなく始めのほうに。

3、1回1テーマ、10行位に。

4、ホームページを持っている人は、文末に URL を。

5、JIS X0208 規格外の文字（機種依存文字）のチェックを。

<http://www.chem.sci.osaka-u.ac.jp/networks/check/jisx0208.html>

インターネットで使えない丸数字や半角カタカナ、括弧入り略号などは文字化けの原因です。

次回 346 号の締め切りは 02 月 12 日、発行は 02 月 14 日の予定です。

<本誌記事の無断転載を禁じます>

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 345 号

最新号・バックナンバーの閲覧

<http://archive.mag2.com/0000014872/index.html>

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

購読申し込み／解除案内

<http://www.yamazaki-i.org>

2013.01.31（木）発行 山崎農業研究所&編集同人

<mailto:yamazaki@yamazaki-i.org>

***** ここまで『電子耕』 *****